

## 6 優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰

### (1) 審査委員長経過報告・講評

全国水産試験場長会副会長 木村 稔

審査委員長の木村でございます。審査委員会の経過及び結果についてご報告します。規定に基づき、3つのブロックより推薦のあった各表彰候補について、9月29日に東京都島しょ農林水産総合センター会議室において会長賞表彰審査委員会を開催し審査を行いました。

審査にあたり、各担当者からリモートからのプレゼンテーションによって研究業績の内容が発表されました。推薦調書と事前の質疑応答、当日のプレゼンテーションをもとに、全国のブロック幹事から選出されました審査委員長と5名の審査委員により規定に基づき、「地域の水産業の振興に貢献するか」、「試験研究の成果が今後の水産試験研究の発展に寄与すると認められるかどうか」、主にこの2点を評価の視点として審査を行いました。その結果、いずれも令和4年度全国水産試験場長会会長表彰を受けるにふさわしい業績であると判断しました。

まず、海面部会 東北ブロックから推薦されました、茨城県水産試験場、現在、茨城県農林水産部水産振興課に所属しています 多賀 真（たが まこと）さんによる「北部太平洋海区のさば類の資源・漁況予測の精度向上に関する研究」です。

近年におけるマサバの急激な資源変動に対して、従来ブラックボックスとなっていた仔稚魚期における生残要因の一部を解明しました。また、まき網漁業によるマサバ漁の盛期となる南下期について、資源量との関係から南下回遊 開始時期の予測が可能となり、特に南下期の漁況予測については、県内の漁業関係者のみならず、県外の産地市場からの問い合わせも受けるようになってきており、これらの成果は地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められました。

次に、海面部会 瀬戸内海ブロックから推薦されました、山口県水産研究センター内海研究部 増殖病理グループの 多賀 茂（たが しげる）さんによる「二枚貝養殖方法の特許技術を活用したタイラギ中間育成技術開発」です。

アサリ、タイラギ等の二枚貝は資源が減少しており、増養殖技術の開発が重要です。本研究ではアサリを対象とした水路式陸上養成方式で特許を取得し、この技術をベースにタイラギの中間育成技術を開発しました。現在、山口県では海上垂下および干潟における母貝団地造成技術開発に、同技術により中間育成された種苗を用いられています。こうした一連の取組は、我が国における二枚貝増養殖に寄与するとともに地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められました。

最後に、内水面部会 東北・北海道ブロックから推薦されました、青森県産業技術

センター内水面研究所 調査研究部の 静 一徳（しずか かずのり）さんによる「カワウ食性解析への DNA メタバーコーディング法の活用による食害対策」です。

カワウは全国的に生息数の増加や生息域が拡散し、水産業における被害が顕在化しています。これまでの胃内容物調査は、猟友会による駆除の時期や駆除個体の有無に左右されてきたが、カワウ糞の DNA 分析により、季節的な食性変化を把握することが可能となりました。本手法は少ない労力で成果が期待でき、カワウ対策推進の上で大きな障壁となっている食性調査に飛躍的な発展をもたらす技術であり、地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められました。

どれも素晴らしい研究で、地域で奮闘している水産試験場の研究者の皆様に改めて敬意を表したいと思います。本日はおめでとうございます。以上で講評を終わります。

令和4年9月29日

令和4年度全国水産試験場長会会長賞表彰審査委員会審査結果報告書

全国水産試験場長会  
会長 平石 靖人 様

全国水産試験場長会  
優秀研究業績表彰審査委員会  
審査委員長 木村 稔

令和4年度全国水産試験場長会会長賞表彰候補に推薦された3業績について、下記のとおり審査委員会を開催して審査した結果を報告します。

記

開催日時：令和4年9月29日（木）13:30～15:15

開催方法：リモート併用による各研究担当者からの推薦業績の説明と審査

出席者：

審査委員

委員長 木村 稔（北海道ブロック：北海道立総合研究機構水産研究本部 本部長）

委員 福嶋 稔（北部日本海ブロック：石川県水産総合センター 所長）

西府 稔也（九州・山ロブロック：宮崎県水産試験場 場長）【代理出席：安田 広志 副場長】

加藤 利弘（西日本ブロック：愛媛県農林水産研究所水産研究センター 栽培資源研究所 所長）

井谷 匡志（西部日本海ブロック：京都府農林水産技術センター 海洋センター 所長）

青木 伯生（関東・甲信越ブロック：埼玉県水産研究所 所長）

推薦ブロック幹事

海面 神 康俊（東北ブロック：岩手県水産技術センター 所長）

海面 高田 茂弘（瀬戸内海ブロック：山口県水産研究センター 内海研究部 部長）

内水面 川田 暁（東北・北海道ブロック：福島県内水面水産試験場 場長）

説明者

海 面 多 賀 真

（東北ブロック：茨城県水産試験場）【現：茨城県農林水産部水産振興課 主任】

海面 多賀 茂（瀬戸内海ブロック：山口県水産研究センター 内海研究部病理グループ専門研究員）

内水面 静 一徳（東北・北海道ブロック：青森県産業技術センター内水面研究所 調査研究部 主任研究員）

オブザーバー

会長 平石 靖人（兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター 所長）

事務局 宮原 一隆（同 主席研究員兼課長）

特別幹事 中野 卓（東京都島しょ農林水産総合センター 所長）

小野 淳（同 振興企画室 室長）

幹事県 大友 俊武（岩手県水産技術センター 首席専門研究員兼企画指導部長）

奥山 芳生（和歌山県水産試験場 場長）

田子 泰彦（富山県農林水産総合技術センター 水産研究所 所長）

南條 暢聡（同 課長）

審査結果：

海面部会2ブロックと内水面部会1ブロックから推薦のあった以下の3業績について、各研究担当者からリモートにより説明を受けて審査した結果、いずれも令和4年度全国水産試験場長会会長賞表彰を受けるにふさわしい業績と判断されました。

(1) 海面部会 東北ブロック

「北部太平洋海区のさば類の資源・漁況予測の精度向上に関する研究」  
茨城県水産試験場（現：茨城県農林水産部水産振興課）  
主任 多賀 真

選考理由：

近年におけるマサバの急激な資源変動に対して、従来ブラックボックスとなっていた仔稚魚期における生残要因の一部を解明した。また、まき網漁業によるマサバ漁の盛期となる南下期について、資源量との関係から南下回遊開始時期の予測が可能となった。特に南下期の漁況予測については、県内の漁業関係者のみならず、県外の産地市場からの問い合わせも受けるようになってきており、これらの成果は地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められる。

(2) 海面部会 瀬戸内海ブロック

「二枚貝養殖方法の特許技術を活用したタイラギ中間育成技術開発」  
山口県水産研究センター 内海研究部  
増殖病理グループ  
専門研究員 多賀 茂

選考理由：

アサリ、タイラギ等の二枚貝は資源が減少しており、増養殖技術の開発が重要である。本研究ではアサリを対象とした水路式陸上養成方式で特許を取得し、この技術をベースにタイラギの中間育成技術を開発したものである。現在、山口県では海上垂下および干潟における母貝団地造成技術開発に、同技術により中間育成された種苗を用いている。こうした一連の取組は、我が国における二枚貝増養殖に寄与するとともに地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められる。

(3) 内水面部会 東北・北海道ブロック

「カワウ食性解析へのDNAメタバーコーディング法の活用による食害対策」  
青森県産業技術センター内水面研究所 調査研究部  
主任研究員 静 一徳

選考理由：

カワウは全国的に生息数の増加や生息域が拡散し、水産業における被害が顕在化している。これまでの胃内容物調査は、猟友会による駆除の時期や駆除個体の有無に左右されてきたが、カワウ糞のDNA分析により、季節的な食性変化を把握することが可能となった。本手法は少ない労力で成果が期待でき、カワウ対策推進の上で大きな障壁となっている食性調査に飛躍的な発展をもたらす技術であり、地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められる。

## (2) 副賞贈呈・コメント

地域水産試験研究等促進奨励会代表 川口 恭一

みなさん、こんにちは。

副賞の贈呈の趣旨についてお話しさせていただきます。

私の記憶が定かではないのですが、静岡大会でしたでしょうか、水産関係の技術系全国団体というのは、皆さんのいろいろな仕事の成果をいただいて全国の地域で仕事をしており、お互いに連携協力する関係にあるのだから、しっかり応援していこうということで、場長会の3つの賞に対して、当時5万円でしたか、図書券を贈呈したところから始まったわけでした。

同封資料にもありますように、趣旨は現在も変わっておりません。かつて懇親会の場である方が、「昨年表彰いただいて大変ありがたかった。特に公費とは違って、こんな言い方変ですけども、使途についての大きな制限もなく、ありがたい仕組みになっている。ついては、もっと増額できないか？」という要請を受けました。どういうふうに財源調達していくかということで、水産関係団体に呼びかけましたところ、去年は11団体ですけども、今年は13団体が、これに応じてくれまして、財源調達をして、引き続きこういう格好で副賞の贈呈という運びになった訳でございます。

いずれにしましても、皆さんとの連携協力等によりまして、私どもも仕事をしていくことができるという関係でございますので、引き続きよろしく願いいたします。引き続き今年も贈呈をさせていただくことにしたいと思います。よろしくお願い致します。

## 全国水産試験場長会の皆様

地域水産業等を対象に業務を展開する全国的な水産関係団体は、水産試験場等の試験研究成果等を基礎とし、これら機関と連携して業務展開を図ってきているところであり、両者の緊密かつ円滑な連携協力が極めて重要と考えています。

このため下表の水産関係団体が「地域水産試験研究促進奨励会」を構成し、一般社団法人全国水産技術協会が行なってきた「優秀研究業績表彰」に対する事業を継承発展させ実施してきているところです。

今年度も下表に掲載する水産関係団体により、引き続き優秀研究業績表彰に対する副賞贈呈の事業を実施することといたしました（参考：優秀研究業績表彰副賞＝図書券 10 万円/件×3 件）。

場長会の皆様方には、このような趣旨及び経過をご理解賜り、引き続き一層の連携協力を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

令和 4 年 11 月 16 日

地域水産試験研究等促進奨励会代表 川口恭一

### 地域水産試験研究等促進奨励会の構成団体

団 体 名	ホームページ URL
公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構	<a href="http://www.umitonagisa.or.jp/">http://www.umitonagisa.or.jp/</a>
公益財団法人 海外漁業協力財団	<a href="http://www.ofcf.or.jp/">http://www.ofcf.or.jp/</a>
一般社団法人 水産土木建設技術センター	<a href="https://www.fidec.or.jp/">https://www.fidec.or.jp/</a>
一般社団法人 漁業情報サービスセンター	<a href="http://www.jafic.or.jp">http://www.jafic.or.jp</a>
全国漁業協同組合連合会	<a href="http://www.zengyoren.or.jp/">http://www.zengyoren.or.jp/</a>
一般社団法人 全国水産技術協会	<a href="http://www.jfsta.or.jp">http://www.jfsta.or.jp</a>
一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所	<a href="http://www.jifc.or.jp/">http://www.jifc.or.jp/</a>
全国内水面漁業協同組合連合会	<a href="http://www.naisuimen.or.jp">http://www.naisuimen.or.jp</a>
公益社団法人 全国豊かな海づくり推進協会	<a href="http://www.yutakanaumi.jp/">http://www.yutakanaumi.jp/</a>
一般社団法人 大日本水産会	<a href="http://www.suisankai.or.jp">http://www.suisankai.or.jp</a>
一般財団法人 東京水産振興会	<a href="http://www.suisan-shinkou.or.jp/">http://www.suisan-shinkou.or.jp/</a>
公益社団法人 日本水産資源保護協会	<a href="http://www.fish-jfrca.jp/">http://www.fish-jfrca.jp/</a>
一般社団法人 マリノフォーラム 2 1	<a href="https://www.mf21.or.jp">https://www.mf21.or.jp</a>
事 務 局	（一社）全国水産技術協会（横山）

（令和 4 年 11 月 1 6 日現在、五十音順）